

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あかしろきいろ発達支援の一む		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 11月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 11月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性・状況に応じた支援	“やるべき時にはやる”という社会性やコミュニケーションの基礎に焦点を当てて支援。同じプログラム内でも、それぞれの課題に合うように一人ひとり異なるアプローチで支援をしています。こどもの状況を鑑みて、小集団、個別など最適な支援を組み合わせ提供できるよう、個別支援計画を立てています。	基本の方針はそのままに、こどもの発達にアプローチする様々なプログラムを考案、実施中です。様々な動きを経験していくことで脳に刺激を与えつつ、「出来た」と感じられる体験もセットで積ませています。
2	他機関と連携をした総合的な支援	保護者からの希望により、利用者の通う保育園や幼稚園を始めとした関係機関との連携を行っています。事業所以外での利用者の様子を知ることで、より実態に即した支援を提供することが出来ています。また、支援の方針を共有することで、利用者にとって一貫性のある対応を取ることが可能になっています。	より多くの子どもたちにより良い支援を提供していくために、支援者向けの講座を企画しています。連携の輪、支援の輪を広げてください。外に向けた働きかけを行っています。
3	保護者同士の縦の繋がり	放課後等デイサービスも実施する多機能型の特徴を活かし、小学部に在籍する保護者との交流の場を設けています。支援者以外にも相談できる場を用意し、先輩保護者からの生の助言を受けることで、子育てに関わる先行きの不安や悩みを軽減できるようにしています。	事業所内だけに留まらず、広く悩みを持つ保護者同士が交流できる場を設けることを検討しております。関わりや繋がり輪を広げながら、保護者が孤立せず、前向きな気持ちで子どもと向き合える環境を整備していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小規模の事業所の為、人の動きが限定的	運営施設が一施設のみでの為、人事の異動が起こりません。考え方や見え方が固定化されやすい環境であることは、常に留意していく必要性を感じています。	外部の研修を利用したり、関係機関との連携を積極的に図ったりすることで、外に出ていく意識を持ち、新しい知識を得る動きをしています。これにより、支援の幅を広げながら、画一的な考えに陥らないように努めています。
2			
3			